

# 体に潜むヤツ

熊谷 博子

東京新聞 夕刊コラム『放射線』（現・『紙つぶて』） 2007年5月14日

またしても左眼がヘルペスになった。多分4回目だ。原因は多くの人が感染し、日ごろは神経の中に潜んでいるウィルスだ。いやなヤツで、疲労がたまると人の弱さにつけこんで顔を出す。

私の場合は角膜内部に出てしまうので、眼が白く濁り、目の前に、厚い白いカーテンがぶら下がった感じになる。こうなると、目玉を取り出して洗って戻したい、という衝動にかられる。

最初になったのは8年前だ。豪雪地帯の山形県・金山町と、正反対の気候である沖縄・宮古島の老人たちの交流をテーマに撮っていた。撮影は7割方終わっているのに、資金難と、おまけに撮影したビデオテープを私たちの手元に持ってこられない、という異常事態が起きた。何とか打開しようと日々神経をすり減らしていた。風邪と思って寝込んだ翌日、起きたら何と左目があかない。たちの悪い細菌に感染したらしく、ほほの真ん中まで赤く腫れ上がった。3日間点滴をうってやっとおさめて2週間後、同じ眼がズキリと痛い。

医者がまじまじと私の顔を見て言った。「よほどお疲れなんですね。今度はヘルペスです」。その時初めて、眼にもヘルペスができることを知り、驚いた。

かつ、脳に入れば脳膜炎になると言われ、あわてた。

にもかかわらず4年前、ひどい状態になり、入院してしまった。自分の眼の玉の写真を撮ってもらったら、ぶよぶよと白くむくんでいた。

こんな時、恐怖にかられながら思う。たまたま“文明国”にいたので、特効薬で治療が受けられる。でも戦場や貧しい国にいたら、失明している。自分の弱い部分と向き合いながら、そんな状況は世界中からなくさなくてはと、つくづく感じる。